平成28年 9月13日

日本原子力発電株式会社

**敦賀発電所1号機 クリアランス対象物に係る
放射能濃度の測定及び評価方法の認可申請について**

当社は本日、「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」に基づき、敦賀発電所1号機の運転・保守、廃止措置に伴って発生するクリアランス※対象物に係る放射能濃度の測定及び評価方法の認可申請書を原子力規制委員会に提出しました。

今後は、原子力規制委員会の審査に適切に対応してまいります。

※原子力発電所の運転・保守や廃止措置に伴って発生する資材等の中には、放射能濃度が極めて低く、人の健康への影響が無視でき、「放射性物質として扱う必要がないもの」と法令上定められているものも含まれている。これらを測定・評価し、基準値以下であることを確認したものをリサイクルしたり、処分することができる制度を「クリアランス制度」と呼ぶ。

以上

<添付資料>

- ・敦賀発電所1号機において用いた資材等に含まれる放射性物質の放射能濃度の測定及び評価方法の認可申請書（概要）

敦賀発電所 1号機において用いた資材等に含まれる
放射性物質の放射能濃度の測定及び評価方法の認可申請書（概要）

1. 今回申請したクリアランス対象物

敦賀発電所 1号機の運転中に発生した撤去物及び廃止措置後の廃止措置工事で発生する撤去物のうち、金属を対象としています。その量は、炭素鋼、ステンレスなど約 2,900 トン（除染作業等により変動する可能性があります。）と推定しています。

2. 測定・評価する放射性物質の種類

コバルト（Co-60）、セシウム（Cs-134, Cs-137）、トリチウム（H-3）等、13 核種について放射能濃度の測定・評価を行います。

3. 測定・評価方法

専用の測定装置でガンマ線を測定することにより、コバルト（Co-60）、セシウム（Cs-134, Cs-137）等の放射能濃度を評価します。ガンマ線を放出しないトリチウム（H-3）等の放射能濃度は、サンプル分析結果等に基づいて評価します。

4. 対象物の管理方法（認可後）

今回申請した放射能濃度の測定及び評価方法について認可を受けた後、測定・評価を行ったクリアランス対象物は、その結果について国の確認を受けるまでの間、発電所構内の固体廃棄物貯蔵庫の「確認待ちエリア」で保管します。

国の確認を受けたクリアランス対象物については、発電所から搬出するまでの間、発電所構内の「搬出待ちエリア」で保管します。

それぞれのエリアでは、異物の混入を防止するため、専用容器に封入し管理することとしています。

以 上